麦のカルテック栽培

（１０アール当り）

項目	時期と方法	資材	
		例１：稲ワラがある場合	例２：堆厩肥を使う場合
土作り （兼・元肥）	なるべく早い時期に、同時に投入して耕起します。 ※２０～２５cm の深さにプラウ耕をするのが有効です。 ※地下水位４０cm以下の乾田。	稲ワラ（１０アール分）５００ｋｇ ラクト・バチルス　６００ｇ 硫　安　３０ｋｇ 小麦：畑のカルシウム　２０ｋｇ (大麦：畑のカルシウム　２０ｋｇ)	堆厩肥　５００ｋｇ（～１トン） ラクト・バチルス　６００ｇ 硫　安　２０ｋｇ 小麦：畑のカルシウム　２０ｋｇ (大麦：畑のカルシウム　２０ｋｇ)
		※とくに地力の乏しい土地の場合は、硫安を１０ｋｇ増量して下さい。 ※もしワラ・堆厩肥・有機物が無い場合は、米ヌカ６０ｋｇ(以上)と、硫酸カリ１０ｋｇを 追加して下さい。 ※硫安ではなく 通常の複合肥料を施す場合は、チッソ成分５ｋｇ。 ※土壌ｐＨ に問題が無ければ、小麦では、品質(小麦粉のイオウ含有量)を重視して カルテックＣａ粒を施用する事もあります（但し土壌ｐＨ に注意)、大麦では、土壌酸性に弱いので 畑のカルシウムを、お勧めします。特に水田の落水後１ヶ月ほどのｐＨ低下には注意。酸性で排水が悪いと湿害が心配です。 ※種撒き１５日前までに施用・耕起しておいてください。	
前半の管理 （１１～２月）	種子／播種 前半期	① 種子は塩水選(小麦なら比重１.２２)で選別し、温湯浸(または薬剤)で黒穂病の消毒をして、播種･覆土します。出芽後、除草剤の散布をします。 ② **土が締って、排水･通気が悪い時は 中耕して新根の発生を促します。** ※ もし湿害(鉄過剰害)が起った場合、土壌ｐＨが酸性(５.５以下)なら畑のカルシウム２０kg を散布してから、中耕して下さい。 ③ １２～２月、霜柱によって耕土が「浸み上がる」場合は、麦踏み。	
分ゲツ肥	早春 （１２～２月）	**硫　安　１０ｋｇ** ※２月以降の無効分ゲツは茎立ち(節間伸長)後に枯れますが、ここに蓄積されたデンプンや栄養分は有効茎へ転流し、穂を充実させます。 ※地力が出来ている土で保肥力があれば、この追肥は不要の事もあります。そのためには土作り時の硫安を１０ｋｇ増量しておいて下さい。 ※２月のチッソ量が過剰だと、３月に幼穂の原基形成(ひいては収穫)が遅れ、節間が伸びすぎ、倒伏しやすくなり、サビ･ウドンコ病も増えます。もしチッソ過剰になりそうだったら、畑のカルシウム２０ｋｇを散布して、カルシウムでバランスをとって下さい。（硫安と併用可能）	
穂　肥	（３月上旬） 出穂前４５日	**硫　安　１０ｋｇ**　（ただし、チッソ過剰の場合を除く） ※初冬に分化した幼穂は、３月中旬にエイ花が分化し、これ以後、節間伸長期となります。エイ花分化より前(３月上旬)に穂肥を施します。施用時期が遅れないように注意してください。 ※穂肥は上位４葉(特に第３葉)を大きくし、穂の粒を揃って充実させます。	
登熟促進	（４月上中旬） 出穂前１０日頃	カルテックＣａ粒状　２０ｋｇ　［選択］ ※花にカルシウムを効かせて、登熟を速く進め、脱粒を防ぎます。	
出穂・開花後、収穫前	収穫２０日前迄 小麦:５月中旬 大麦:５月上旬	カルテックＣａ液状　５００倍 葉面散布　［選択］ ※乳熟期(開花後２５日)の乾燥にも、粒揃いを良くし、赤カビを防ぎます。 ※もし多雨やチッソ過多で穂の登熟･黄ばみが遅れるようなら、これで成熟を促進します。 ※この葉面散布は、小麦粉の品質を高め、種子用麦や麦芽用ビール麦なら発芽力を強める効果があります。	